

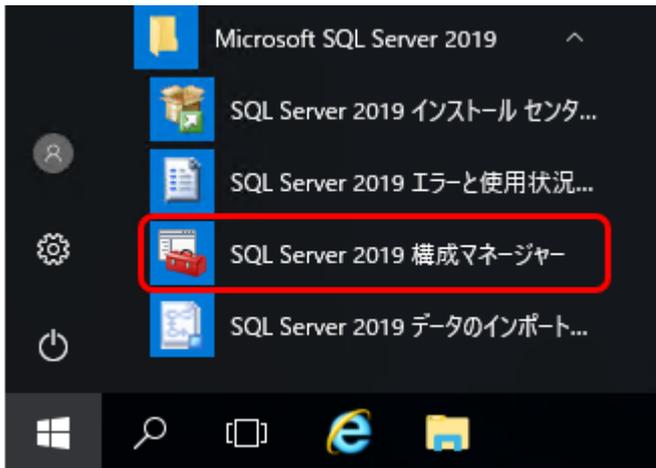
サーバー機(親機)で、TCPポート・ファイヤーウォールの設定がされているかを確認する

目次

- 1) TCPポートの設定..... 1
- 2) Windows ファイアウォールの設定 受信の規則 3
- 3) Windows ファイアウォールの設定 送信の規則 9

1) TCPポートの設定

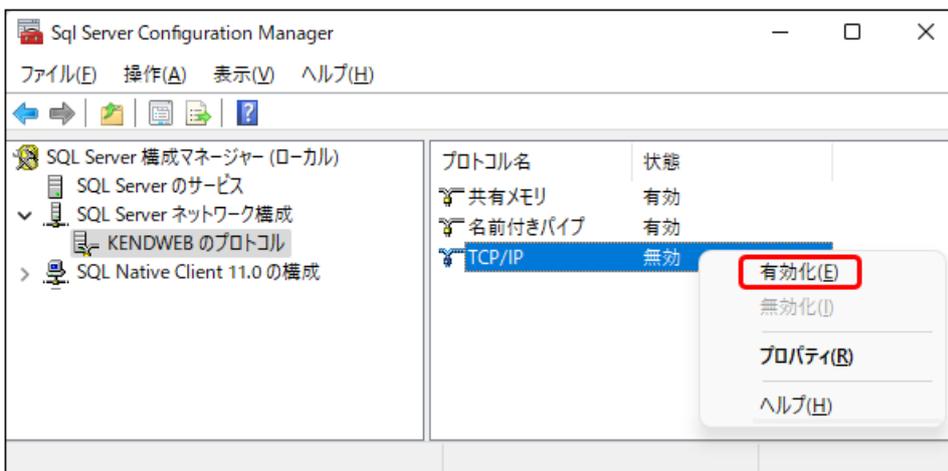
1. 「スタート」-「すべてのプログラム」-「Microsoft SQL Server2022/2019」から「SQL Server 構成マネージャー」を選択します。



※「スタート」に「Microsoft SQL Server2022/2019」が存在しない場合は、エクスプローラーから、以下パスを開いてください。

Version	Path
SQL Server 2022	C:¥Windows¥SysWOW64¥SQLServerManager16.msc
SQL Server 2019	C:¥Windows¥SysWOW64¥SQLServerManager15.msc

2. 「SQL Server 構成マネージャー」の「SQLServer2022/2019 ネットワークの構成」の下の「KENDWEB のプロトコル」を左のツリーから選択して、右側の「TCP/IP」を右クリックして「プロパティ」を選択します。
3. このとき、「TCP/IP」とともに「名前付きパイプ」の状態も「有効」となっていることをご確認ください。「無効」の場合は右クリックして、「有効化」を行ってください。



4. 「IPアドレス」のタブから「IP／ALL」の「TCP 動的ポート」に数字が入っていることを確認して、その設定値を削除して空白の状態とします。

TCP/IPのプロパティ

プロトコル IP アドレス

アクティブ	はい
有効	いいえ
IP3	
IP アドレス	:::1
TCP ポート	
TCP 動的ポート	0
アクティブ	はい
有効	いいえ
IP4	
IP アドレス	127.0.0.1
TCP ポート	
TCP 動的ポート	0
アクティブ	はい
有効	いいえ
IPAll	
TCP ポート	
TCP 動的ポート	49211 ←空白にする

TCP 動的ポート
動的ポートが無効な場合は空白。動的ポートを使用するには、0 に設定します。

OK キャンセル 適用(A) ヘルプ

5. 「TCP ポート」に「1433」を入力して「OK」を選択します。

IPAll

TCP ポート	1433
TCP 動的ポート	

IP アドレス
IP アドレス

OK キャンセル 適用(A) ヘルプ



※ご注意※

他社の SQLServer と同居して使用する場合に、TCP1433 ポートを使用している場合がありますので、その際には 1435 などとして固定ポートを割り振る必要があります。
この場合には、以下のファイアウォールでの例外ポートの番号も同様に変更してください。(ただし、1434 は使用しないでください。)

6. 「①TCP ポートの設定」が完了しました。
続いて「②Windows ファイアウォールの設定」へお進みください。

2) Windows ファイアウォールの設定 受信の規則

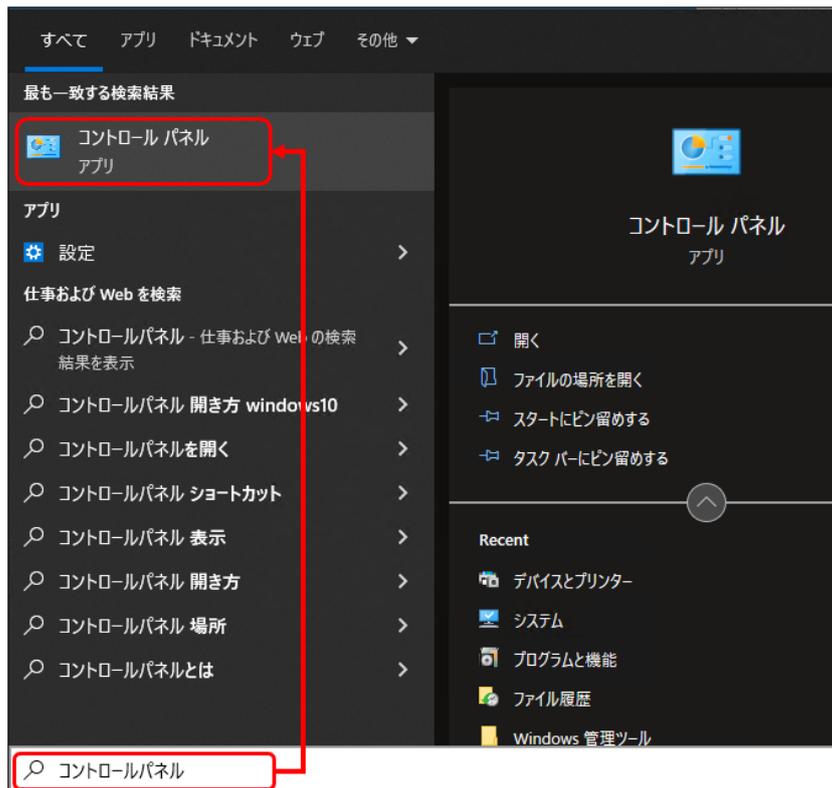
TCP ポートの設定が完了しましたら「Windows ファイアウォール」の例外設定を以下の手順で行います。



ご利用しているウイルスソフト側でファイアウォールの設定をしている場合は、ウイルスソフト側で例外設定を実施してください。

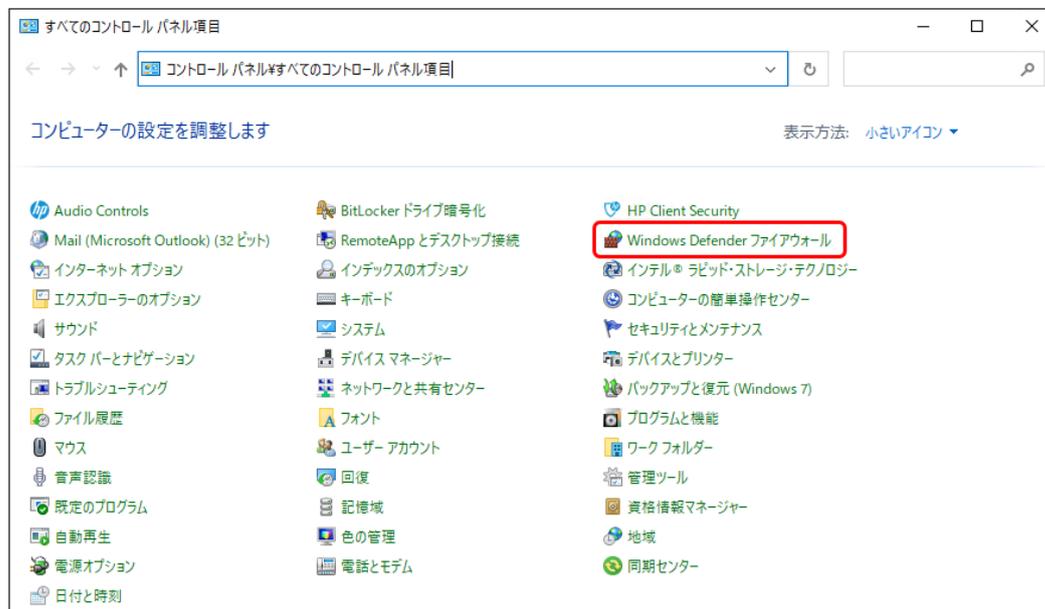
なお、ウイルスソフト側の設定に関しましては、ご購入いただいたウイルスソフト側へご確認をお願いします。

1. 「スタート」から、「コントロールパネル」を検索して開きます。

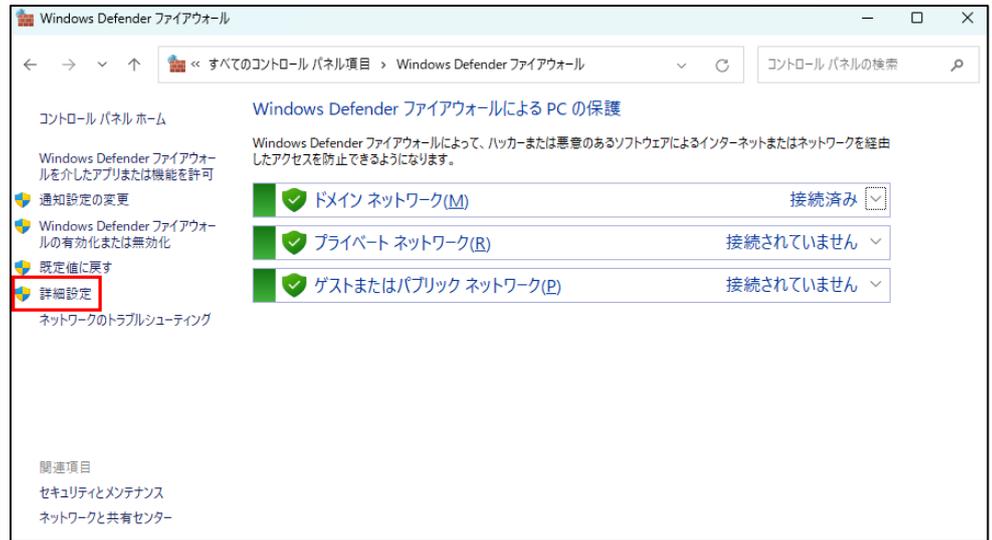


2. 『Windows Defender ファイアウォール』を選択します。

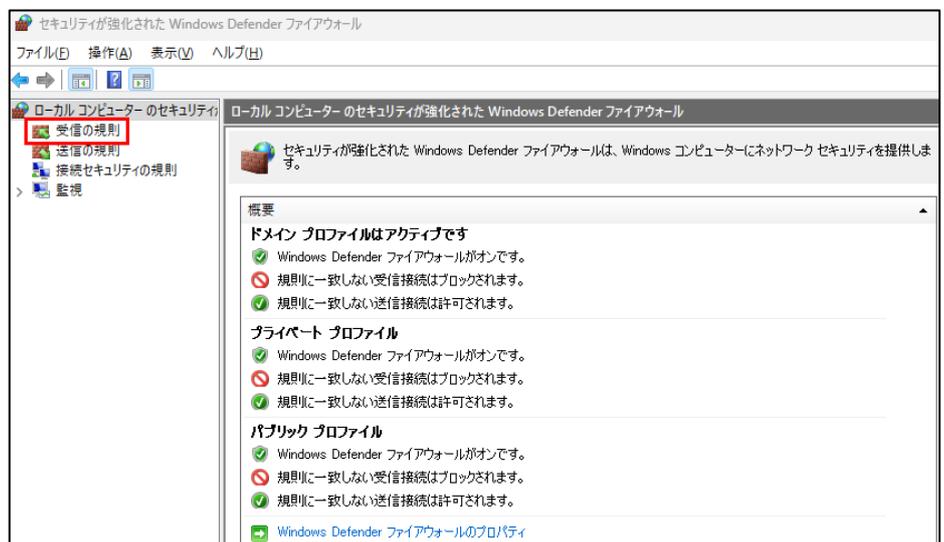
※Windows Server 2016 をお使いの場合は、『Windows ファイアウォール』と表示されます。



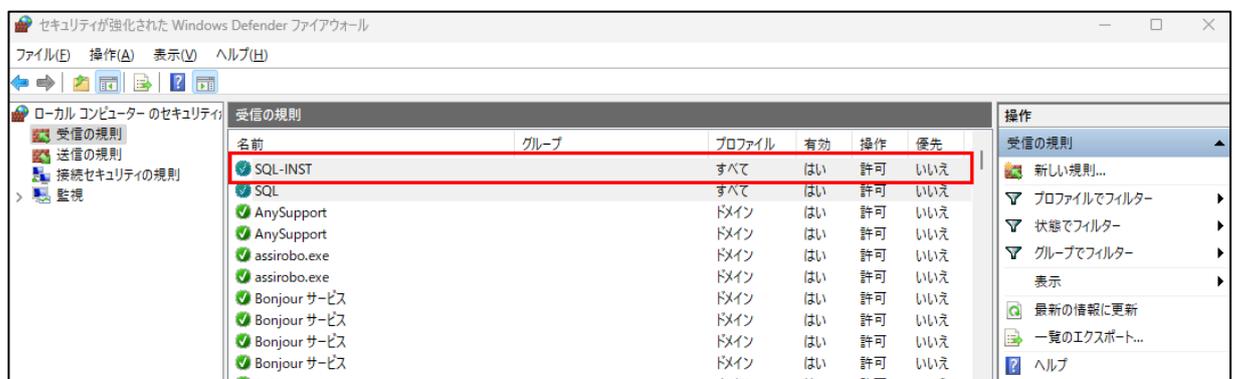
3. 『詳細設定』を選択します。



4. 右図のような画面になります。
左のツリーから『受信の規則』を選択してください。



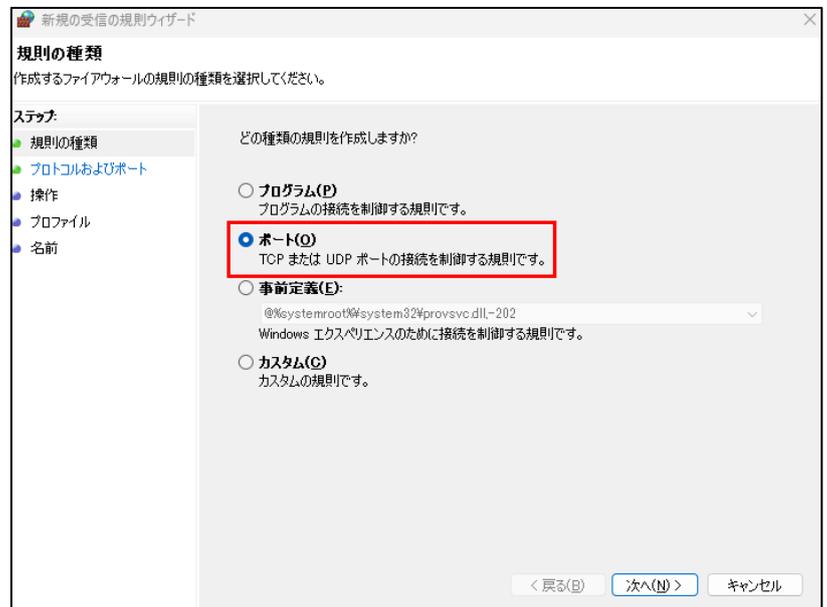
5. 「受信の規則」に、「SQL」「SQL-INST」が登録されているか確認してください。
登録されている場合は、「3)Windows ファイアウォールの設定 送信の規則(p.9)」に進んでください。



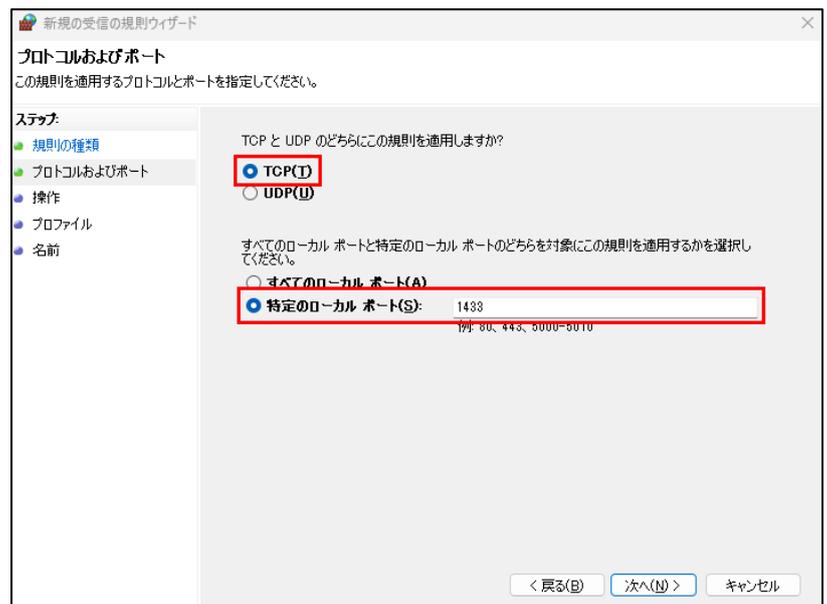
6. 「受信の規則」に、「SQL」「SQL-INST」が登録されていない場合は、『新しい規則』を選択します。



7. 【規則の種類】画面で、『ポート』を選択し、「次へ」ボタンを選択します。



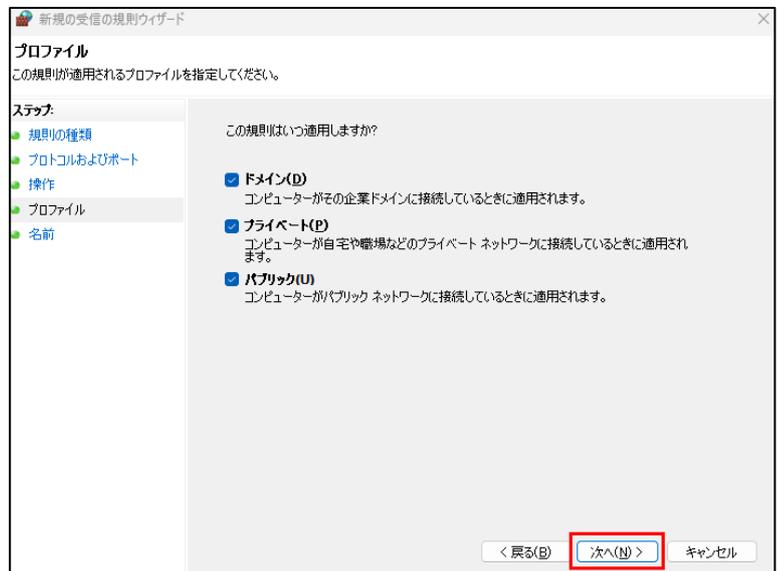
8. 【プロトコルおよびポート】画面で、『TCP』と『特定のローカル ポート』を選択し、[1433]と入力します。「次へ」ボタンを選択します。



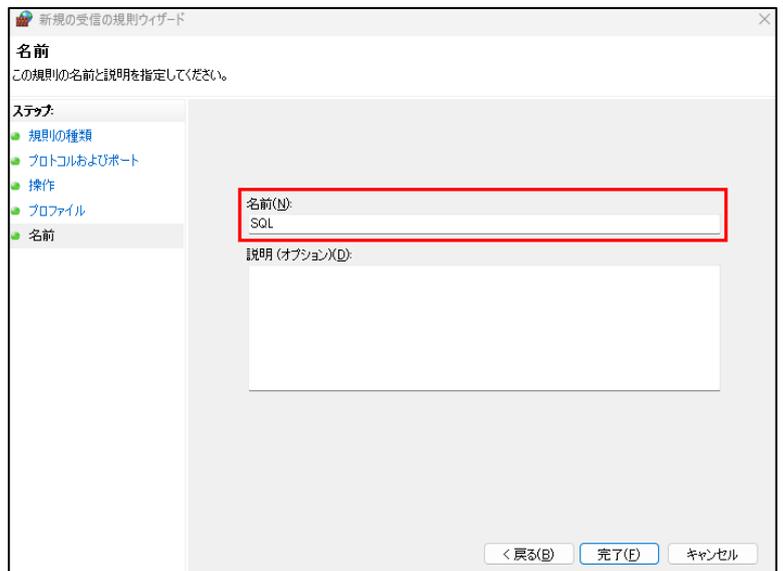
9. 【操作】画面で、『接続を許可する』を選択し、「次へ」ボタンを選択します。



10. 【プロファイル】画面で、すべての項目にチェックを付け、「次へ」ボタンを選択します。



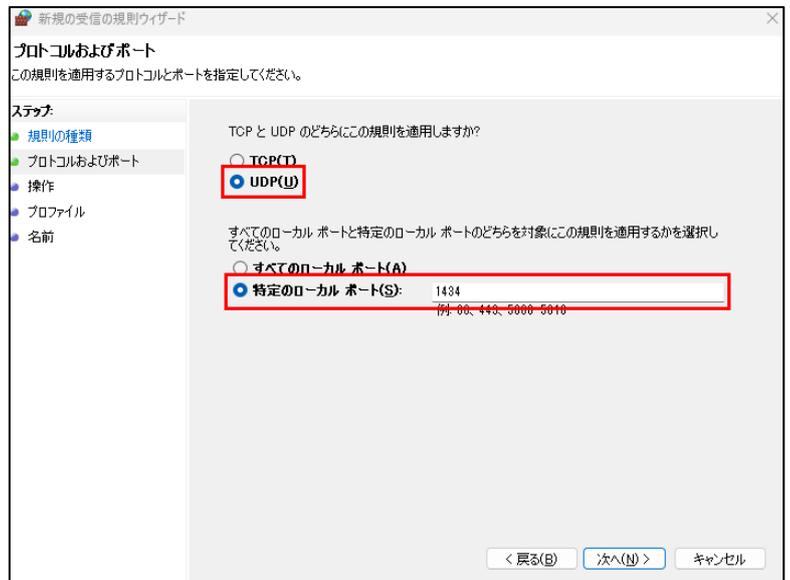
11. 【名前】画面の「名前(N):」に「SQL」と入力し、「完了」ボタンを選択します。



12. 新しい規則が追加されました。
続けて、もう一度『新しい規則』を選択します。



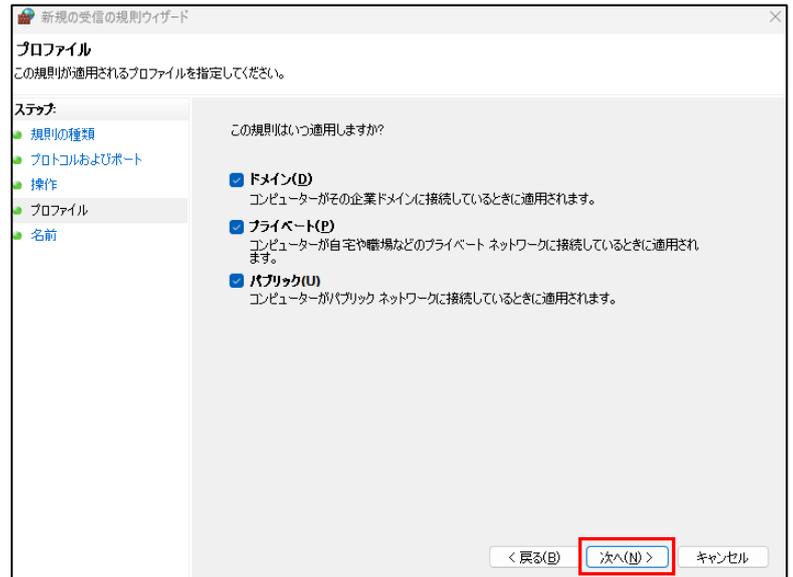
13. 手順 7 と同じように、【規則の種類】画面で『ポート』を選択し、「次へ」ボタンを選択します。
【プロトコルおよびポート】画面で、『UDP』を選択し、『特定のローカル ポート』に[1434]と入力します。「次へ」ボタンを選択します。



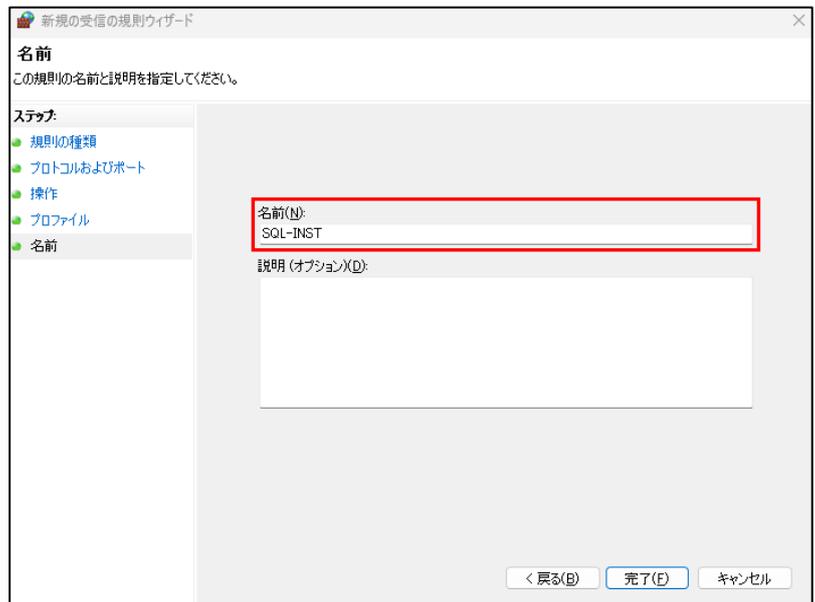
14. 【操作】画面で、『接続を許可する』を選択し、「次へ」を選択します。



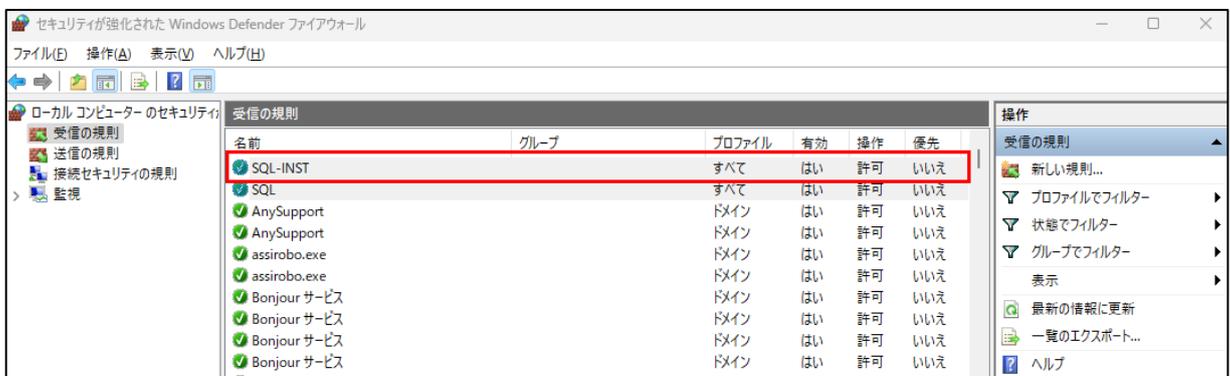
15. 【プロフィール】画面で、すべての項目にチェックを付け、「次へ」ボタンを選択します。



16. 【名前】画面の「名前(N):」に「SQL-INST」と入力し、「完了」ボタンを選択します。

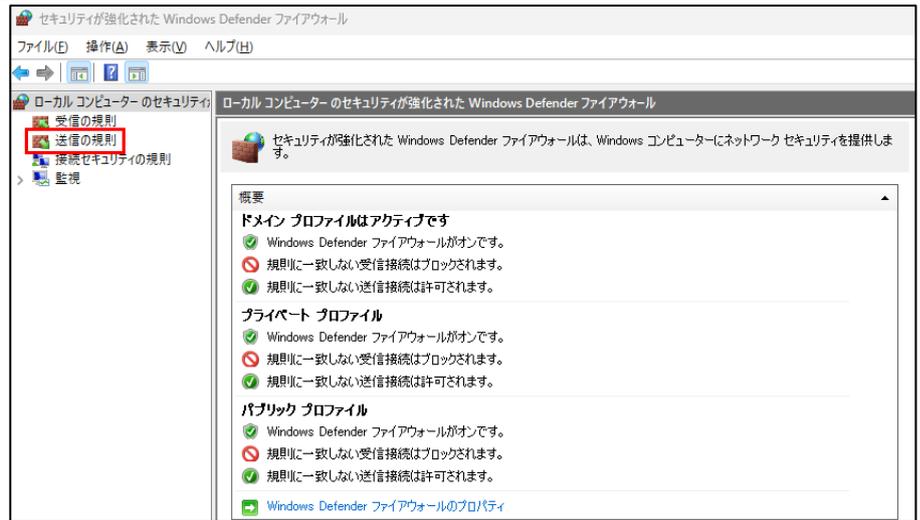


17. 新しい受信の規則が追加されました。

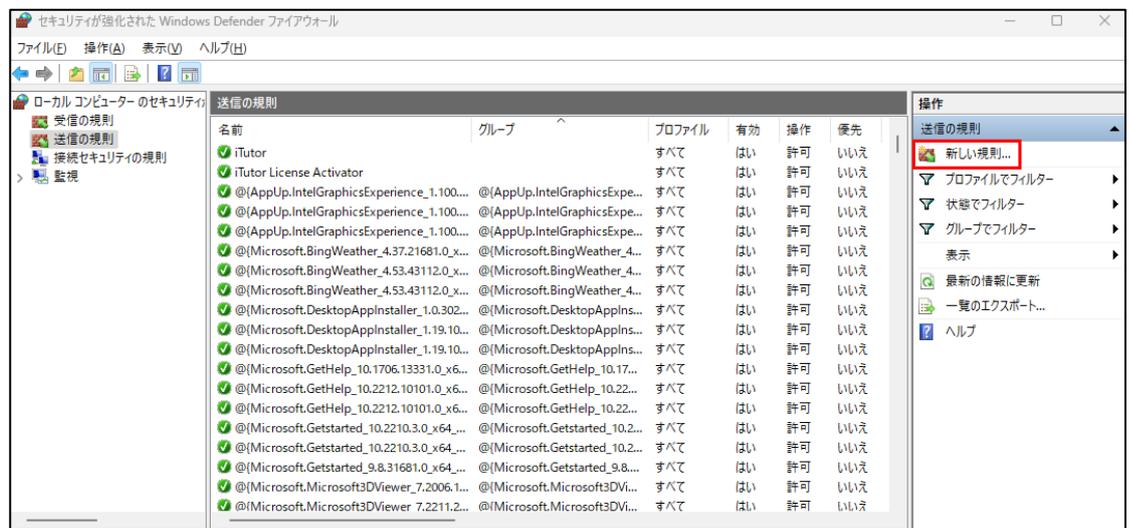


3) Windows ファイアウォールの設定 送信の規則

- 次に左のツリーから『送信の規則』を選択してください。



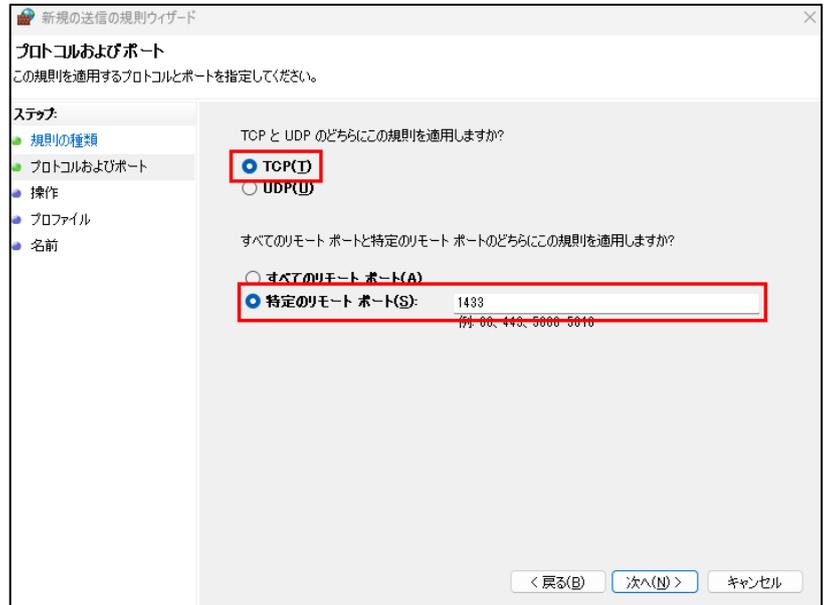
- 『新しい規則』を選択します。



- 【規則の種類】画面で、『ポート』を選択し、「次へ」ボタンを選択します。



4. 【プロトコルおよびポート】画面で、『TCP』と『特定のローカル ポートを選択し、[1433]と入力します。『次へ』ボタンを選択します。



5. 【操作】画面で、『接続を許可する』を選択し、『次へ』ボタンを選択します。



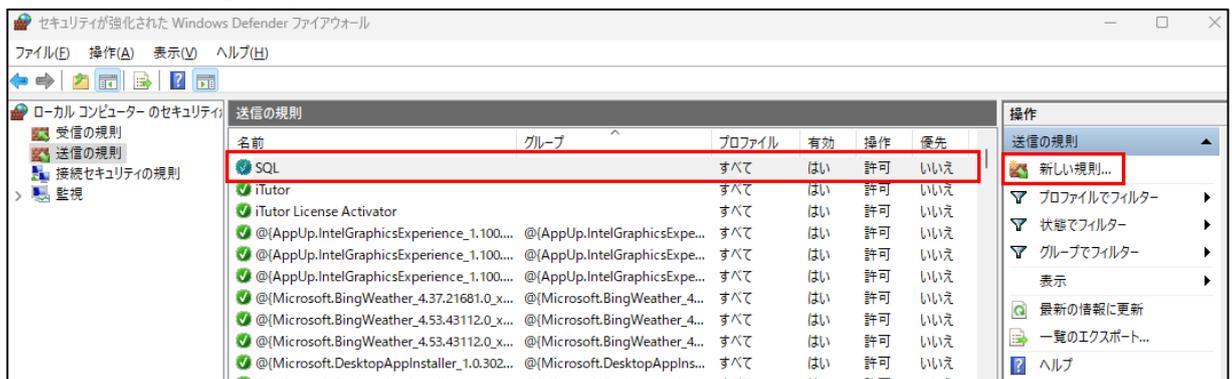
6. 【プロファイル】画面で、すべての項目にチェックを付け、『次へ』ボタンを選択します。



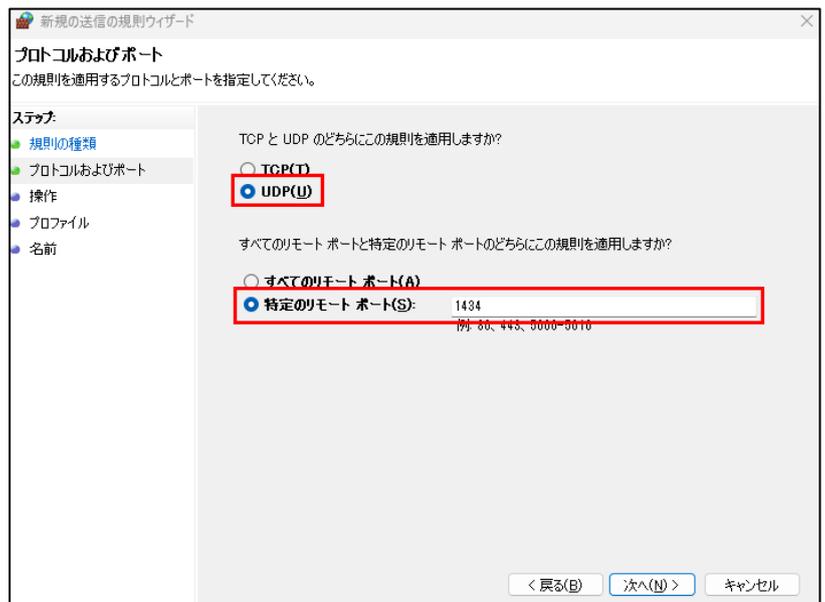
7. 【名前】画面の「名前(N):」に「SQL」と入力し、「完了」ボタンを選択します。



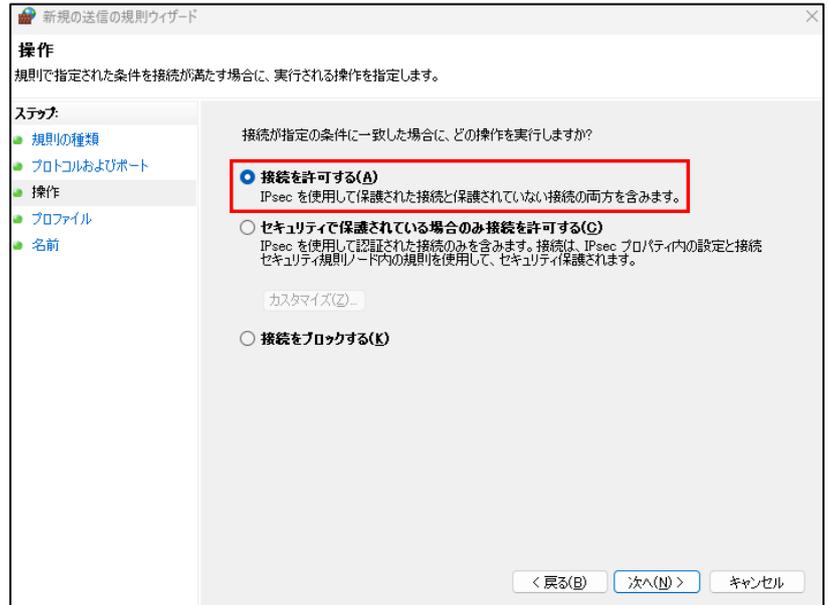
8. 新しい規則が追加されました。
続けて、もう一度『新しい規則』を選択します。



9. 手順 3 と同じように、【規則の種類】画面で『ポート』を選択し、「次へ」ボタンを選択します。【プロトコルおよびポート】画面で、『UDP』を選択し、『特定のローカルポート』に[1434]と入力します。「次へ」ボタンを選択します。



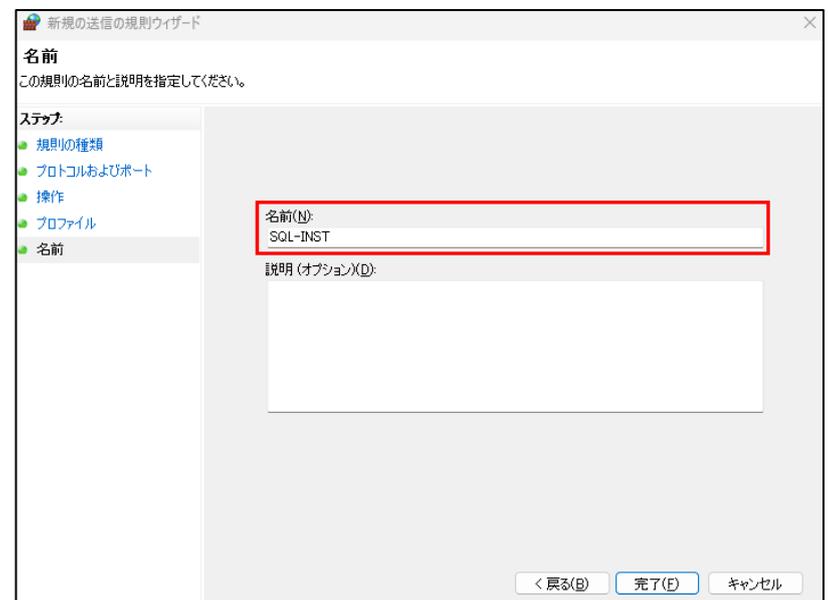
10. 【操作】画面で、『接続を許可する』を選択し、「次へ」を選択します。



11. 【プロファイル】画面で、すべての項目にチェックを付け、「次へ」ボタンを選択します。

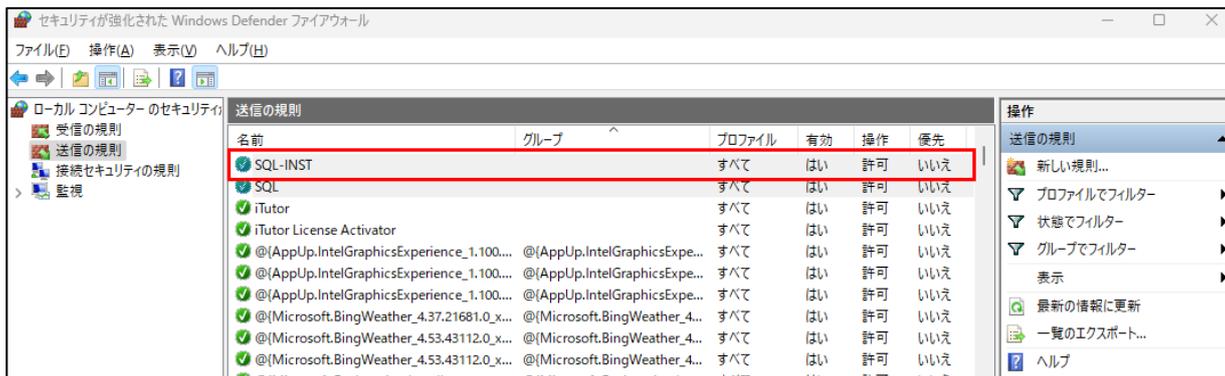


12. 【名前】画面の「名前(N):」に「SQL-INST」と入力し、「完了」ボタンを選択します。



13. 新しい送信の規則が追加されました。

これで TCP ポートおよび Windows ファイヤーウォールの例外設定が完了しました。どっと原価 NEO シリーズが起動するかご確認ください。



以上